

■短歌の世界／短歌十首 (p. 26～30)

◆◆語句◆◆

意味

悼む…心から人の死を悲しむ。

磨く…努力していつそうよくする。

おごり…自分の能力を過信し、いい気になって、謙虚な気持ちを失うこと。

不來方…岩手県盛岡の古い呼び方。

踏みしだく…つぶそうと強く踏む。

◆◆短文◆◆

心地よく

例 春の日差しを心地よく感じる。

◆◆読解◆◆

ステップ1

1 ① 千三百 ② 日本

③ 短いこと ④ リズム

⑤ 想像力

2 ① 三十一 ② 七 ③ 五 ④ 七

⑤ 字余り ⑥ 字足らず ⑦ 句切れ

ステップ2

【短歌の世界】

1 例 短歌は、日本が自慢できる文化の一つである。

2 ① 家族 ② 旅先

3 ① 我

(2) 例 二人で観覧車に乗っている幸せな時間がずっと続いてほしい。

【短歌十首】

1 イ

2 一目見ん一目みん

3 (1) 初

(2) ① 緑 ② 赤

4 少年のふる帽子

5 結(五)・八

ステップ3

1 ① イ ② オ ③ ア ④ エ ⑤ ウ

2 (好きな短歌の記号) 例 イ

例 この短歌は色の使い方が魅力である。空と海という空間全体に広がる「あお」の中で、ぽつんとただよっている「白」が際立ち、孤独なイメージにつながっている。一方で周囲に染められない強さや純粹さ、気高さも感じられる。この白鳥は、作者の姿ではないかとも想像される。